

秘story of Higashiyama Spa

第一話・会津東山温泉の由来

交 涉天平年間(729~749年)、名僧・行基が会津を巡遊された際、東の山に異彩ある雲の棚引くのを見て、奇異の念にうたれ、その雲を目指して黒川の畔に出、川に沿って行くとき霧が次第に深くなった。やがて大地を震わすような轟音がして、滝のところにたつた。行基は身も心も洗われて見とれていて、どこからか三本の足と不思議な色の羽根を持つ鳥が現れた。行基はその鳥に導かれ、黒川に沿って行くとき左方の岩間から湯気が立ち上がり、温泉を発見した。これが東山温泉の発祥である。



第二話・尼測(千穂姫)一章

葦 名家の重臣大町左京盛胤にとてもうつくしい一人娘「千穂姫」がいた。千穂姫には領主の直盛公の小姓で築田衛門という許婚がいたが、領主直盛公が千穂姫の評判を聞いて父盛胤に千穂姫との結婚を迫った。千穂姫はその結婚を拒みつけた。しかし、父盛胤が留守中に領主直盛公直々の召出し状がもたらされ、千穂姫は途方にくれ死を決心する。

湯川と東山湯ノ入湖

水源は2つあり、共に布引山山中より発して中湯川の西北で合流し、大きく弧をえがき東山ダムとなる。東山温泉の南側を西に流れ鶴ヶ城の南側を流れる。東山温泉街を流れることから湯川というが、昔は上流を羽黒川、盆地に入ってから黒川といった。長さ45km。



- ◆雨降り滝◆ 阿賀野川の支流である湯川に掛かる。高さ約10m、幅16m、36段ともいわれる大石に水が勢いよく、あたかも雨のように見えることからこの名がある。付近には紅葉が楽しめる(からかさわ)がある。
- ◆原滝◆ この原滝付近では会津藩校日新館の水練場ができた前まで生徒達の水練場として使われていた。
- ◆伏見ヶ滝◆ 上の滝(約5m)と下の滝(約6m)の二つの断崖によりできています。昔より「不思議ヶ滝」や「フジ身ヶ滝」、「大蛇」など伝説の多い滝である。

幕末の会津と東山温泉の歴史

与謝野晶子 晶子が夫鉄幹が死んでから夫の思い出を詠んだ詩を一行、旅館に残しており、晶子は東山温泉に2度訪れています。ここで詠んだ歌を旅館で保存していたものを晶子が死んで40年たった昭和57年この碑を作りました。



竹久夢二 大川端で「宵待草」の詩情をうかべたのを記念して作られ、後にゆかりのある東山温泉に移されました。大正時代に東山温泉を訪れた文化人のひとりに竹久夢二がいます。くつろぎ宿 新滝に長く逗留し、芸妓などをモデルにした絵を描き残しました。絵はロビーに展示され、宿泊客中心に見ることができるようになっています。湯川にかかった新滝橋のたもとには、「までとくらせど 来ぬひとを 宵待草のやるせなさ」の碑が建てられています。



会津の歳時記

1日	東山羽黒山元朝まいり	東山温泉
10日	十日市	会津若松市
14日	歳の神	会津若松市
21日	会津松ろうそくまつり	会津若松市
18~24日	会津彼岸獅子	会津若松市内各所
第3土日	鶴ヶ城さくら祭り	会津若松市
12日	近藤勇墓前祭	天寧寺墓地
3日	会津若松市こどもまつり	会津若松市
未定	新緑の会津再発見 ツーヨーフェスティバル	東山温泉
1日~	お日市	会津若松市内各所
第1土	東山温泉お湯かけ祭	東山温泉
13~16日	東山温泉盆踊り	東山温泉
2~24日	会津まつり 盆踊り・湯公行列	会津若松市
中旬	蒲生氏郷まつり	会津若松市
3日	御茶園紅葉のつどい	会津若松市

岡城の 見どころ

鶴ヶ城 会津藩23万石の居城。戊辰戦争時には籠城戦の激しい攻防に耐えたとされる名城で、現在では1965(昭和40)年に再建された。【天守閣入場料】大人400円、小・中学生150円、児童館と市民会館500円、中学生以下150円

飯盛山 白虎隊十九士の墓所となったことで知られる山。山腹には白虎隊士の墓と自刃の地があり、そこからは鶴ヶ城が望める。周辺には上がり下りの階段が一度も交差しないという不思議な木道建築のさざえ堂をはじめ、資料館、史跡など見所が充実している。

七日町通り 大正浪漫漂う古い建物が並び、土産物・飲食店が軒を連ねる。新緑と紅葉の二色の河原町寺などもこの通りにある。

大内宿 江戸の街、街道の重要な宿場であった大内宿。伊勢交代の大名行列や旅人が行き交い、街道沿いの家屋は洋風や和風を統一され、美しい景観を誇っていた。その景観を残すこの村は、現在、国の重要保存地区に指定されている。

アクセス

東京から東山温泉へ:
 高速バス(4時間30分)
 会津線(4時間10分)
 東北新幹線(1時間20分)
 東北自動車道(2時間30分)

仙台から東山温泉へ:
 東北自動車道(1時間)
 東北新幹線(40分)
 高速バス(2時間30分)

会津若松から東山温泉へ:
 舞鶴自動車道(30分)
 舞鶴西線(1時間)
 まちなか周遊バス(15分~40分)
 タクシー(10分)

会津東山温泉観光協会
 〒965-0814 福島県会津若松市東山町湯本滝ノ湯 110
 TEL0242-27-7051 代 FAX0242-28-8722
 http://www.aizu-higashiyama.com/

第三話・尼測(千穂姫)二章

羽 黒川(湯川)の測にたどりつくとき身を清め、湯上羽黒山三社権現の奥の院に二十一日間祈願し、満願の日、夢枕に「無常の恋を諦めて、仏門に入るように…」とお告げがあったが、衛門との恋を諦められず測へ身を投げた尼測(千穂姫)。すると、軍荼利、妙見、観音の三尊が現われ、姫を救い上げた。それを見ていた別当東光寺の行智上人は千穂姫に仏門に入ることを勧め、上人の弟子となり「智高尼」と改めて仏門に入った。その後千穂姫が身を投げた測を「尼測」と呼ぶようになった。

第四話・伏見ヶ滝(藤身ヶ滝悲恋)

昔 城下町に近い柳原に藤という娘がいた。その娘には想いを寄せる男がいて、滝向こうの不動尊へ祈ってその恋が叶うようにと願かけ参りをし、その満願の日の夜、背に火焰を負った不動明王が突如現われ、「東山の入口にある松の三又の古木がある。その枝に石を投げて縁の有無を試みなさい。石が松の枝に留まれば願いが叶えられ落ちたらあきらめなさい。」といて消えた。娘はその松の木の下に来て一心を込めて石を投げてみたが、石は枝に留まらなかった。無念に思い、狂気の如く石を投げて、石は留まらず娘は悲嘆のあまり測に身を投げてしまった。よって藤身ヶ滝と呼ばれるようになった。現在では、伏見ヶ滝と変わり、その松を石上松と呼んでいた。今では、その松は大雪の年に雪倒れしてしまった現在ではもうなくなってしまった。

レトロ情緒にひたる温泉街ぶらりスポット

写真提供:福島民報社

足湯処 (無料)
湯川近くにある横断4mの足湯。源泉かけ流しで、動脈硬化や慢性腎臓病に効果がある。川のせせらぎをBGMにのんびり浸かろう。
利用期間:4月中旬~11月30日
利用時間:9時~19時

地酒BAR ほど東山
大正ロマン漂うレトロな空間の中で、会津の地酒をお楽しみいただけます。2階は会津ゆかりのマンガ資料館が併設。
開館時間:16時~21時
休:不定休

射的場
東山温泉街の風情に合ったレトロな射的場。本物そっくりのライフル銃を構えて見事に撃ち当てると、景品のお菓子がもらえる。
開館時間:16時~21時
休:不定休

新島 八重(幕末のジャンヌダルク)

新島 八重(にいじま やえ)は、同志社創立者の新島襄の妻として知られています。旧姓は「山本八重」として、会津藩の砲術師範、山本権八・さく夫妻の子として誕生しました。白虎隊士の中には八重が指導した隊士がいたほど砲術が得意であった八重は幕末の戊辰戦争で断髪・男装し、鶴ヶ城籠城戦で自らもスパンサー銃を持って奮戦しました。戊辰戦争前、会津藩校日新館教授の川崎尚之助と結婚しますが、籠城戦を前に離婚、一緒に戦いますが、尚之助は行方不明になります。その後明治4年に東山温泉に逗留した後、京都府顧問となっていた実兄・山本覚馬を頼って京都へ。兄の推薦により京都女紅場の権舎長・教道試補となり、新島襄と知り合い、明治9年に結婚します。京都初の日本人同士のキリスト教式の結婚式を行いました。欧米流のレディファーストが身に付いていた襄と、男勝りの性格の八重は似合いの夫婦であったと言われています。西洋の感覚を身に着けながらも、会津武士道の誇りを貫き、悪妻、烈婦などと呼ばれても、明治の時代にエネルギーに生きて八重の生き方が元祖ハンサムウーマンと呼ばれる由縁なのです。



〒965-0814 福島県会津若松市東山町湯本滝ノ湯 110
 TEL0242-27-7051 代 FAX0242-28-8722
 http://www.aizu-higashiyama.com/

AIZU HIGASHIYAMA ONSEN

